



大砂土中だより

はつ らつ
澗 刺 と



さいたま市立大砂土中学校

048-684-8004

<http://osato-j.saitama-city.ed.jp>

No.10 令和7年2月3日号

子どもから大人への3年間

校長 倉林 弥生

暦の上では立春を迎える月となりました。それでもまだまだ寒さは続いています。生徒の皆さんには、健康管理を心掛け、元気にこの寒さを乗り切ってほしいと思います。



先月の下旬から私立高校の入試が始まり、多くの3年生が受験をしました。さらに、今月の26日・27日には公立高校の学力検査並びに実技検査・面接が控えています。3年生にとって大きな試練が目の前に立ちはだかっているのが正に今です。辛いかもしれませんが、乗り越えることができるのは自分しかいません。自分を信じて、今まで頑張ってきたことを全て発揮してください。その上で、焦らず静かに結果を待つのみです。「人事を尽くして天命を待つ」

中学校の義務教育の3年間は、あっという間に過ぎていきます。この3年間という短い期間に中学校という小さな社会の中で、皆さんは、先生方や職員の方、そして先輩たちや同級生の仲間、時には後輩といった多くの人々との関わりを通し、大人としての考え方や振る舞いを身に付けなければなりません。いわば中学校は、「子どもで入学し、大人として卒業する場所」だと私は考えています。

入学したての頃は、中学校という小さな社会の仕組みがよく分からず、戸惑うことがほとんどです。ですから先生方は、皆さんが立派な大人に成長するために、細かく時には厳しく支援をし、正しい方向へ導こうとするのです。その後、段々と自主性が芽生え、少しずつ大人に近づいてくると、先生方の指示を受けなくても自分たちで考え、判断して行動できることが多くなってきます。そして、物事を客観的に考えることができる大人となった時、いよいよ中学校という小社会から卒業し、さらに多くの人に出会い、様々なことを経験することになる真の社会へと羽ばたいていきます。

しかし、それだけ準備をしても、いざ真の社会に出てみると、その厳しさを感じると思います。それは、今まで許されたり、大目に見てもらえたりしたことが通用しなくなることが多々あるからです。真の社会は、決してあまくはないのです。

したがって、この中学校の3年間でどれだけのものを培ってきたかが問われます。それが真の社会に出た時の皆さんを支える土台であり、糧となる、と言っても過言ではありません。

皆さんには、3年間しっかりと自分自身と向き合い、成長し、大人として立派に大砂土中学校を卒業してほしいと心から願っています。

今年度もあと約1カ月半です。自分自身を成長させる時間も今年度、残りわずかとなってきました。限られた時間を悔いが残らないように、そして、この1年間の成長が来年度に繋がるように一日一日を大切に過ごしてください。



～本校正門前のイチョウの木～
剪定がされ、少し寂しい感じもしますが、
成長していく姿を見守っていきましょう…